

牛久：学校周辺に見る自然

第37号 牛久二小

2012年11月11日発行

＜ 秋の動物たち ③バッタ、カマキリの仲間＞

牛久二小4年2組との「校庭の秋の生き物観察」、今回は、バッタやカマキリの仲間です。



二つ並んで産まれていたオオカマキリの卵のう（左）と、近くの草むらで見つかった大人のオオカマキリ（右）。

観察が始まってまもなく、二つ並んだ**オオカマキリ**の卵のうを見つけてくれました。一頭のメスが二つも並べて産んだのでしょうか？それとも別々の2頭のメスが産んだものなのでしょうか？おもしろいものを見つけてくれました。近くの草むらの中では、大人のオオカマキリも見つかりましたね。



「先生～ッ、茶色の小さなカマキリもいたよ～」と呼ばれて行ってみると、カマの内側に独特のもようが……。黒、白、紫のもようが並んでいることから、**ココマキリ**と分かりました。

カマキリの仲間は、成虫で冬を越すことはできず、卵を残して死んでいきます。ココマキリの卵のうは見つけることができませんでしたが、どこかに産んで子孫を残していけるといいですね。まるでボクサーのようなかまえて、こちらを警戒する**ココマキリ**。カマの内側に、黒、白、紫のもようが並ぶ。



こちらは、**ヒシバッタ**。けっこう、たくさんいましたね。上から見ると、翅の形がひし形に見えるので、この名がつけました。バッタの仲間ですが、翅が短くて飛ばず、あしの力でジャンプするだけのようです。冬にも見かけることがありますが、幼虫または成虫で、越冬するそうです。

小さな体で、翅も短く飛ばないが、ジャンプ力で移動できる**ヒシバッタ**。幼虫または成虫で越冬する。



頭の先がとがっていて、口のまわりが赤いキリギリスの仲間がいました。指などにかみつくとはなれず、無理やりはなそうと引っばると首が抜けてしまうのでこの名がついたという、**クビキリギス**です。この日は、左のような緑色型のと、右のような褐色型のと両方見られました。成虫で冬を越すそうです。

成虫で冬を越す、クビキリギスの緑色型(左)と褐色型(右)。



ビオトープのまわりで、**エンマコオロギ**も見つけました。日本のコオロギの仲間の中では最大で、顔つきなども「閻魔」の名にふさわしいと思いますが、鳴き声はかわいらしく、好きです。翅に複雑な筋があつて鳴けるのはオスで、メスは鳴きません。雑食性で、卵は、産卵されるとそのまま地中で冬を越すそうです。

卵で冬を越す、エンマコオロギ。鳴くのはオスで、メスには長い産卵管がある。



成虫で冬を越すツチイナゴ(左)と卵で越冬するオンブバッタ(右)。

最後に、**ツチイナゴ**(左)と**オンブバッタ**(右)。ツチイナゴは眼の下の涙マークが特徴で、成虫で越冬。オンブバッタは、大きめなのでメスでしょう。卵で越冬します。【理科支援員 宮内】